

学生の本代

白鷗大学教育学部教授

田 多 英 興



私は古い文学部の出身ですから、本に対する思い入れはとりわけ強かった時代がありました。それは幼稚園や小学校から始まり大学院の時代まで続きます。とりわけ本に打ち込んだのは小学校の時代で、ひたすら本に夢中になっていたように思います。戦後直ぐなので本など子どもたちの周りからはほとんど消えていた時代でした。それでも古い本を探し出しては、ただ無我夢中で読んでいました。田河水泡の「のらくろ」がその頃が一番のお気に入りです。田河水泡は我が叔父が若い頃に傾倒した人だそうで、彼から何回か手紙をもらっていたと言うことを母や祖母から聞いていたものですから、余計に思い入れの多い漫画でした。無論、戦前の本です。中学になるとやや動機が不純になってきます。ひたむきに本に向き合うだけという純粹さは消えていきました。と言っても、私が育ったのは今から半世紀以上も前の九州の辺鄙な田舎ですから、今の競争が常態化した環境とはまるで違います。無論村には本屋さんもありませんから、定期の雑誌（友人が戦前からあつ

た「少年クラブ」と言うのを取っていたのに対して、我が家では「少年」と言う雑誌を弟と二人で1冊買ってくれて

いました、「鉄腕アトム」はこの雑誌がデビューです）は、村にある数少ない雑貨屋さんに毎月届いていましたので、これを取りに行く日が本当に楽しみでした。

18年前、秋田の大学から仙台の大学に移った時、研究室の引越しの荷物を整理しているうちに、学生時代に使った外書購読のテキストが何冊か出てきました。懐かしくてばらばらめくっていましたが、本の奥付のところに3,000という数字が出てきました。ちょっと驚きました。つまり、これは1冊3000円という意味なのです。もうすっかり忘れていましたが、貧乏学生だった私は大学の寮に住んでいまして、毎月6000円程度が生活費だという記憶がありました。これはその後この寮が建て替えをする時に、ある友人が同じことをある記事に書いていましたので間違いありません。つまり、当時は貧乏学生でも毎月の生活費の半分に当たる金額の本を年に何冊か買っていたのです。文学部の学生の面目躍如たるところがありますね。自分ながら改めて感心をしました。今はもうむしろ洋書の方が邦語の本よりも安いことがあります。実際、先日ダーウィンの本を買おうとしたら1000円ちょっとで手に入ることが分かって、びっくりしました。しかし、50年前は1ドル360円の時代ですから、3000円というのは今で言う8ドルか9ドルくらいになりますから、当然といえば当然です。もう一つ今度は恥、私の青春時代



の最大の汚点を話しますと、その頃何年間かはパチンコに狂っていた、というか依存症でしたので、生活費の大半をこれにつぎ込んでいたはずなのです。これはこれで自分なりに必然性があって、仕方なかったと今は思いますが、当時は罪の意識にさいなまれながら、すごい葛藤の中で、ひたすら必死に励んでいました。そんな状態でも本代には糸目をつけずにつぎ込んでいたのでしょう。アルバイトもかなりしましたから、それで補っていたのかもしれませんが、それ以外のことは全て犠牲にして本代に掛けていたのだろーうと思います。崩れそうな文学部の学生の一つの姿だったのでしょう。

それ以来、学生諸君にはしばしばこのことを、如何に昔の学生は本を大事にしたかということを示すために、自慢半分で話すことにしています。大学生の本離れを嘆く指摘が出始めてからかなり時間が経ちますし、インターネットの時代になってこの傾向はさらに加速することになっていることを考えての話です。無論こんな時代ですから、インターネット環境にも適応

しないといけませんが、本の価値は下落していません。私もインターネットはしばしば利用します。それはこの歳になったからです。学生時代にはあまりこれに頼りすぎたはいけないのです。昔「10年早い」という言葉がはやっていましたが、まさにその通りです。ことの真贋の区別の出来ないひよっ子の間は大事なことは権威ある「本」で勉強しないとイケないのです。そこでの訓練がある程度完成すればインターネットもいいと思いますし、むしろその便利な点を利用しない理由はないでしょう。しかし、ジャンク情報の多いインターネット環境では若い人は危ないのです。先日結構権威ある人がこれを利用して火傷をした話題が新聞種になっていました。十分に気をつけないといけません。真に重要な基本になる情報は権威ある、古典になった本から勉強するのが筋道なのです。それは凄い時間と手間のかかることですが、修行の時代というのは仕方ないですね。学生諸君はこの辺の選択を誤らないで欲しいと思う今日この頃です。

他機関の図書館利用について



卒業論文や修士論文の資料調査のために他機関の図書館を利用する方も多いと思います。せっかくの時間を無駄にしないよう、事前に十分情報を得てから出かけましょう。

〈事前調査〉

訪問先の図書館に入館するには何が必要かを確認してください。学生証や図書館発行の紹介状など、図書館によって入館に必要な書類は異なります。そうした情報の確認は、訪問先のホームページを見たり、直接Emailで問い合わせたりするなどして、各自行ってください。その結果、本学図書館が発行する紹介状が必要な場合は、レファレンスカウンターにて図書館長名での紹介状を発行します。困ったときは、レファレンスカウンターにご相談ください。

また、訪問せずに白鷗大学図書館を通じて他の大学図書館から雑誌の記事のコピーを取り寄せるサービス（文献複写）や図書を取り寄せるサービス（図書館間貸借）もあります。

〈費用実費負担必要〉

大学図書館と NII

使ってみよう

情報・システム研究機構
国立情報学研究所
National Institute of Informatics

国立情報学研究所「NII（エヌ・アイ・アイ）」は、日本で唯一の学術総合研究所で、大学図書館は共同利用機関として連携・協力しています。

白鷗大学の図書館蔵書検索端末（OPAC）で所蔵を検索をして、所蔵がなかった場合に表示される **Webcat検索** のボタンをクリックしたことはありますか？

図書館ホームページ上部の **資料をさがす** から **データベース** を選択、文献検索より GeNii [ジーニイ] 学術コンテンツポータルで図書や雑誌、論文情報を探したことはありますか？

これらがNII（エヌ・アイ・アイ）のサイトです。国立情報学研究所の入口です。

大変優れたサイトですのでぜひ積極的に使ってください。

NII のコンテンツサービス

GeNii [ジーニイ] NII学術コンテンツ・ポータル

総合検索システム：主要なデータベースをまとめて検索できます。

CiNii [サイニイ] NII 論文情報ナビゲータ



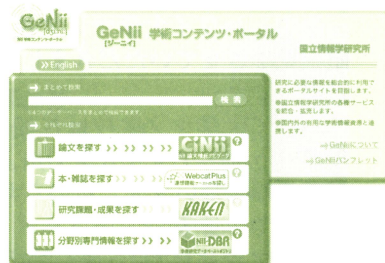
国内の論文を探すならコレ！
日本の学術情報基盤となる論文情報サービス
2007年4月にGoogle連携しました。

Google及びGoogleScholarの検索結果からCiNiiにアクセスされるようになりました。

一般Webユーザーからの「無意識」にアクセスされるケースが激増しているそうです。

論文は固定URL（Permalink）（ベースURL+論文ID）で表示。

学術雑誌の公開、研究紀要の電子化・公開、学会との連携が進んでいます。



<http://ge.nii.ac.jp>

Webcat Plus NII 図書情報ナビゲータ



何と、画期的な連想検索機能です。

日本最大級のデータベースからの検索なので探している資料が
きっと見つかるでしょう。（古い図書から最新まで）

白鷗大学で所蔵していない図書・文献の多くは、ILL（相互貸借）で入手できます。

NII の学術情報流通基盤整備事業（学術コンテンツ事業）

目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）

NACSIS-CAT

オンライン共同分担目録方式により全国の大学図書館などにどのような資料が所蔵されているかがわかる総合目録データベース（図書/雑誌）を形成するためのシステムです。

NACSIS Webcat

総合目録データベースWWW検索サービスです。 <http://webcat.nii.ac.jp>

NACSIS-ILL

図書館間の文献複写や資料の貸借の相互利用サービスシステムです。

〈費用実費負担必要〉

NACSISとは

国立情報学研究所（NII）の前身である文部省学術情報センター National Center for Science Information Systemsの略称で、今も使われています。

図書館には、膨大な資料と情報があります。図書館のルールを守って、上手に「何について」「どのように」調べるのか考えて活用してください。きっと探している資料が見つかると思います。図書館では、いつもお手伝いをいたします。

図書館探訪①

ハワイ大学マノア校 ハミルトン図書館

(<http://library.manoa.hawaii.edu>)

今夏、白鷗大学夏期ハワイ研修に同行しました。参加者は経営学部生を中心に20名。午前中は、ハワイ大学がもつ10箇所のキャンパスのうちの1つ、カピオラニ・コミュニティカレッジで英語研修を受け、午後は“ハワイの文化や歴史を体感する”ということで、フラダンスを習ったり、パールハーバーを訪ねたりしました。

途中、ハワイ大学マノア校 ハミルトン図書館を見学させていただきましたので、簡単にご報告します。

ハワイ大学マノア校は首都ホノルルにあり、世界81カ国、アメリカ全50州より2万人以上の学生が学んでいます。そのうちアジア人が41%を占めています。

マノア校には320万冊を越える文献を所蔵するハミルトンとシンクレアの2つの図書館があります。1日の入館者数は約5000人、今年度からは学生と教職員の図書館利用が24時間可能になりました。ふらっと立ち寄った旅行者も開館時間内であれば、何の手続きもなしに図書館を利用することができます。

ハミルトン図書館は太平洋地域最大の研究図書館ですが、2004年10月の洪水で、大きな被害を受けたそうです。その時失われた政府刊行物文献は280万点、その中には、ハワイ王朝時代の文献や戦時中日系人収容所で発刊された印刷物といった貴重な資料も多く含まれていました。アジアコレクション関係は約1万点以上が失われたそうです。

アメリカの図書館はレファレンスサービスが



レファレンスカウンター



図書館に入ってすぐの情報センター



充実していますが、ハミルトン図書館のホームページ上にも「Ask Us ?」という項目があります。ここではE-mailや電話に加え、チャットでもレファレンス質問のやり取りをすることができます。このサービスはGreater Western Library Alliance (GWLA) によって提供され、ハワイ大学マノア校もこのコンソーシアムのメンバーです。例えば、複雑・高度な質問には100を超える大学図書館が分担して回答するのです。日本ではまだそういったサービスは提供されていませんが、国立国会図書館が「レファレンス協同データベース」(<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>) というものを公開しています。この事業には大学図書館、公共図書館、専門図書館が参加しています。試しに使ってみてはいかがでしょうか。

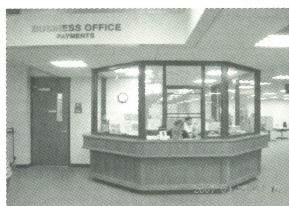
最後になりましたが、ジョイス・津野田先生、ご案内いただいたアジアコレクションのAllen J Riedyさん、どうもありがとうございました。



貸出返却カウンター



自動貸出機



閲覧席

← Business Office
延滞料金の徴収や、学外者への図書館利用カードの販売(年間\$65)、コピーカードの販売を行っています。

ささやき

本館で教職課程資料、800番台の図書(言語)、新書、月報の配架場所を変更しました。それと、気づいていただけたでしょうか。6月に図書館のホームページをリニューアルしました。データベースの種類も増えています。例えば“JapanKnowledge”という百科事典、語学辞典のデータベースの提供を始めました。読書の秋です、きっちり授業、ふらっと図書館に寄りませんか？

平成19年10月24日 発行
編集 図書館だより編集委員会
発行 白鷗大学総合図書館
〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117
(0285) 22-9737 (直通)
ホームページ <http://www.hakuoh.ac.jp/library/>
印刷 俵尚文堂印刷所